

今、自分らしく生きるとはどういうことか？

私たちは、家族や友人、職場など、場所や誰といるかによって少しずつ違う自分で生きています。

平野氏は、小説を書く中で、そのような多面性を「分人主義」という考え方で表しました。

この講演では、分人主義を通して、人と人がどのように支え合い、共に生きていけるのかを考えます。

一人で生きるのがむずかしい時代に、「私たち」として生きるヒントを見つけてみませんか。



©Tamaki Yoshida

小説家

平野啓一郎 Keiichiro Hirano

1975年、愛知県蒲郡市生まれ、福岡県北九州市出身。京都大学法学部卒。

在学中の1999年に文芸誌『新潮』に投稿した小説『日蝕』で第120回芥川賞を受賞した。

以後、一作毎に変化する多彩なスタイルで、数々の作品を発表し、各国で翻訳紹介されている。

主な著書に、小説『葬送』、『高瀬川』、『決壊』、『ドーン』、『空白を満たしなさい』、『透明な迷宮』、『マチネの終わりに』、『ある男』、『本心』等、エッセイに『本の読み方スロー・リーディングの実践』、『小説の読み方』、『私とは何か「個人」から「分人」へ』、『考える葦』、『「カッコいい」とは何か』、『死刑について』、『三島由紀夫論』等がある。2024年、短篇集としては10年ぶりの発表となる最新作『富士山』を刊行。

2025年夏、過去7年間に書いた文学論・芸術論を収録した最新エッセイ集『文学は何の役に立つのか？』、新書『あなたが政治について語る時』を刊行。

また、近年、著作が次々と映像化され注目を集めている。

2019年、小説『マチネの終わりに』が福山雅治さん主演、石田ゆり子さん共演で映画化

2022年、小説『ある男』が妻夫木聡さん主演で映画化、2025年にミュージカル化

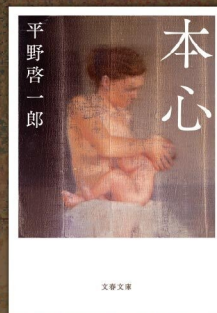
2024年、小説『本心』が池松壮亮さん主演で映画化



『マチネの終わりに』
(毎日新聞出版 / 2016)



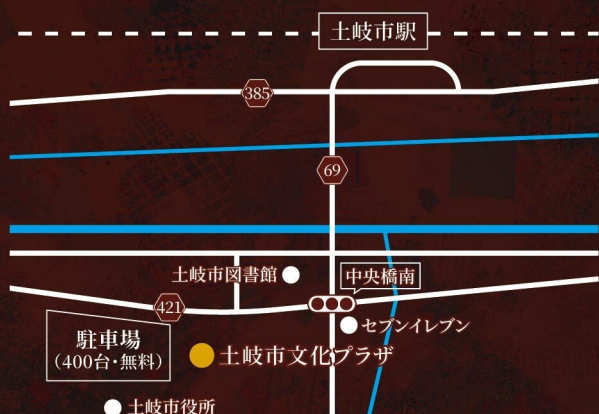
『ある男』
(文藝春秋 / 2018)



『本心』
(文藝春秋 / 2021)



『文学は何の役に立つのか？』
(岩波書店 / 2025)



2026 **1.18** 日曜日
要申込 入場無料 自由席
13:30-14:30
(13:00 開場)



イベントHP

申込期間

先着順・満席次第終了

車椅子席・手話通訳をご希望の方は
1月9日(金)までにお申込みください

申込方法

申込フォーム(二次元コード)または
電話(土岐市図書館 0572-55-1253)

アクセス

お車をご利用の方:文化プラザ前駐車場他(無料)
電車をご利用の方:最寄り駅 JR 土岐市駅から徒歩 13 分



申込フォーム